

2025 年度音楽研究科「大学院入試」の試験内容・実施方法等について

大学院音楽研究科の入試は、「筆記試験（小論文、英語）」「口述試験（書類審査、プレゼンテーション）」により選考を行います。

「筆記試験（小論文）」

提示された複数のテーマの中から、任意の2題をそれぞれ400字程度で解答すること。

「口述試験（書類審査、プレゼンテーション）」

【内容】

論文・レポートや資料及び今後の研究計画について

※書類審査、プレゼンテーションを含む。

※研究計画に関連して、演奏による発表を認める。

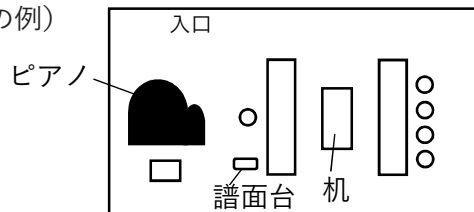
- (1) 任意のプログラムで10分以内とする。
- (2) アンサンブルも可とする。
- (3) ピアノ以外の楽器、共演者・伴奏者は各自で用意すること。

【プレゼンテーション実施に当たってのルール】

- ① 試験は通常の教室で行います。

室内の備品で使用できるものは、机1台、ピアノ、譜面台のみです。

(試験室の例)



※試験室のレイアウトは変更になる可能性があります。

※電源は使用できません。

- ② プレゼンテーション（発表）方法は自由です。発表のしかた自体に有利不利はありません。
- ③ 口頭発表の場合は、10分以内でおさまるよう準備してください。
- ④ 演奏発表（楽器演奏・歌唱）の場合は、任意のプログラムで10分以内とします。アンサンブルも可としますが、ピアノ以外の楽器、共演者・伴奏者は各自で用意してください。

<試験室内への持ち込みについて>

- ① プレゼンテーションに必要な資料・物品（制作物、電子機器、楽譜、書籍、賞状、楽器ほか）は試験室に持ち込んで構いませんが、受験者本人が持ち運びできるものとしてください。
- ② 準備に時間を要したり、持ち込んだ機器等にトラブルが発生しても、プレゼンテーションの試験時間は考慮しません。発表できる時間が短くなりますので注意してください。
- ③ 試験当日、試験会場内で受験生以外の者がプレゼンテーションの準備等を補助することは認めません（演奏発表における共演・伴奏を除く）。

<注意（学生募集要項 p.13）>

- ① 口述試験のプレゼンテーションにおいて演奏による発表を行う場合は、試験直前に音出し等の準備のための控室（練習室）使用を認めます。使用時間は5分程度で、希望者全員同一時間とします（詳細は試験当日に指示）。
- ② 共演者・伴奏者は、出願時に届け出てください。
- ③ 本学教職員、助手及び副手を共演者・伴奏者とすることは認めません。
- ④ 共演者・伴奏者は、試験当日、受験者の受験票（コピー可）を携行し、入構の際には、受付で提示してください。
- ⑤ 受験者が、他の受験者の共演者・伴奏者となっても、試験時間に関する配慮はしません。
- ⑥ 共演者・伴奏者の集合時間は受験生の口述試験集合時間と同一です。

以上

[2024/9 版]